

## 国際協力関連

2016 年は JICA(国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトを開始したため頻繁に海外へ渡航した。ネパールへは 2 月、3 月、5 月、7 月、8 月、10 月、11 月、12 月の 8 回渡航し、3 月にはエジプトのソハグ大学で医療支援を行い、6 月にはモザンビークで医療支援(アイキャンプ)を行ったので活動を報告する。JICA プロジェクト関連では 2 名の眼科医が研修に来た。私(内藤特任教授)の不在中、皆様に多大のご迷惑をおかけしたことを深謝するとともに、暖かいご支援に感謝いたします。

### ネパール 2 月 JICA プロジェクト準備およびトリブバン大学交流支援(徳島大学、自費)

2 月 15 日(月) 夕方、徳島から関空へ移動。  
2 月 16 日(火) 関空～バンコク～カトマンズ。  
2 月 17 日(水) JICA プロジェクト準備会議。  
2 月 18 日(木) トリブバン大学で診療および手術。  
2 月 18 日(金) 帰国の途に着く。  
2 月 19 日(土) 帰国。

### エジプト 3 月 ソハグ大学眼科支援(独自プロジェクト)

3 月 7 日(月) 夕方のバスで徳島から関空へ移動。エミレーツ航空にチェックインし、ドバイ経由でカイロへ。  
3 月 8 日(火) カイロ到着。陸路ソハグへ移動。  
3 月 9 日(水)～11 日(金) ソハグ大学附属病院で硝子体手術指導。  
3 月 12 日(土) ソハグから空路帰国の途に着く。カイロ～ドバイを経由し関空へ。  
3 月 13 日(日) 帰国。

### ネパール 3 月 JICA プロジェクト準備およびトリブバン大学交流支援(徳島大学、自費)

3 月 15 日(火) 夕方、徳島から関空へ移動。  
3 月 16 日(水) 関空～バンコク～カトマンズ。  
3 月 17 日(木) JICA プロジェクト準備会議。  
3 月 18 日(金) ゴール眼科病院訪問。  
3 月 19 日(土) ビラトナガルへ移動。  
3 月 20 日(日) ネパール眼科学会出席。基調講演。  
3 月 21 日(月) 午前、トリブバン大学附属病院で診療。午後、ネパール眼科病院訪問。  
3 月 22 日(火) 祭日。  
3 月 23 日(水) 帰国の途に着く。  
3 月 24 日(木) 帰国。

### ネパール 5 月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

5 月 25 日(水) 夕方、徳島から関空へ移動。  
5 月 26 日(木) 関空～バンコク～カトマンズ。JICA プロジェクト会議。  
5 月 27 日(金) 午前、空路ポカラへ移動。午後、ヒマラヤ眼科病院訪問。  
5 月 28 日(土) 空路ポカラからカトマンズへ移動。  
5 月 29 日(日) JICA プロジェクト現地事務所設立準備。  
5 月 30 日(月) 午前、トリブバン大学附属病院でプロジェクト会議。午後、ネパール眼科病院訪問。  
5 月 31 日(火) 午前、JICA プロジェクト会議。午後、ネパール眼科病院理事会でプロジェクトに関して説明した後、JICA ネパール事務所および日本大使館訪問。  
6 月 1 日(水) 帰国の途に着く。  
6 月 2 日(木) 帰国。

#### モザンビーク眼科医療支援プロジェクト(独自プロジェクト)

6月14日(火) 出国、関空～ヨハネスブルグ(キャセイ航空)。  
6月15日(水) ヨハネスブルグ～マプト(南アフリカ航空)、  
マプト(モザンビーク)～シャイ・シャイ。  
6月16日(木) シャイ・シャイ病院で患者診察および手術場を設営。  
6月17日(金) 70人の白内障手術施行。  
6月18日(土) 術後回診、70人の白内障手術施行。  
6月19日(日) 術後回診、70人の白内障手術施行(合計210人の白内障手術施行)。  
6月20日(月) 器材梱包。撤収。  
6月21日(火) シャイ・シャイから首都マプトへ移動。保健省でアイキャンプ報告会。  
6月22日(水) 帰国の途に着く。マプト～ヨハネスブルグへ。  
6月23日(木) 香港～関空と乗り継ぎ帰国した。

#### ネパール 7月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

7月11日(月) 夕方、関空へ移動。  
7月12日(火) 関空～バンコク～カトマンズ。JICA プロジェクト会議。  
7月13日(水) JICA プロジェクト会議。  
7月14日(木) 午前、トリブバン大学附属病院で診療。JICA プロジェクト全体会議。  
7月15日(金) JICA プロジェクト開始セレモニー。  
7月16日(土) 休養日。  
7月17日(日) トリブバン大学附属病院で診療。  
7月18日(月) JICA プロジェクト事務仕事。  
7月19日(火) JICA プロジェクト現地雇用者面接試験。網膜カンファレンス準備。  
7月20日(水) JICA プロジェクト事務仕事。トリブバン大学附属病院で徳島大学とのネットワークシステムをチェック。  
7月21日(木) トリブバン大学附属病院で徳島大学とのネットワークシステムを再チェック。ネパール眼科病院院長と面談。  
7月22日(金) 帰国の途に着く。  
7月23日(土) 帰国。

#### ネパール 8月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

8月22日(月) 夕方、関空へ移動。  
8月23日(火) 関空～バンコク～カトマンズ。  
8月24日(水) 午前、JICA プロジェクト会議。午後、ネパール眼科病院訪問。  
8月25日(木) トリブバン大学附属病院で診療。  
8月26日(金) 日本大使公邸で在外交館長表彰授与式。  
8月27日(土) 帰国の途に着く。  
8月28日(日) 帰国。

#### ネパール 10月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

10月24日(月) 夕方、関空へ移動。  
10月25日(火) 関空～バンコク～カトマンズ。  
10月26日(水) 午前、JICA プロジェクト会議。午後、ネパール眼科病院訪問。  
10月27日(木) 午前、手術に関して打ち合わせ。  
午後、トリブバン大学附属病院で会議およびJICA ネパール事務所訪問。  
10月28日(金) 帰国の途に着く。  
10月29日(土) 帰国。

#### ネパール 11月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

11月7日(月) 夕方、関空へ移動。  
11月8日(火) 関空～バンコク～カトマンズ。JICA プロジェクト会議。

11月9日（水）午前、JICA プロジェクト会議。午後、硝子体手術指導。  
11月10日（木）網膜カンファレンス準備。  
11月11日（金）網膜カンファレンス。  
11月12日（土）午前、ポカラへ移動。ヒマラヤ眼科病院訪問。  
11月13日（日）ヒマラヤ眼科病院で外来診察および硝子体手術指導。夕方、講演会で講演。  
11月14日（月）午前、ポカラからカトマンズへ移動。午後、硝子体手術指導。  
11月15日（火）硝子体手術指導。  
11月16日（水）午前、JICA プロジェクト会議。午後、在ネパール日本大使面談。  
11月17日（木）帰国の途に着く  
11月18日（金）帰国。

#### ネパール 12月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

12月19日（月）夕方、関空に移動し深夜便でネパールに飛びたった。  
12月20日（火）バンコクで乗り継ぎカトマンズへ。  
12月21日（水）JICA プロジェクト会議  
12月22日（木）JICA プロジェクト講習会テキスト作成。  
12月23日（金）JICA プロジェクト講習会テキスト作成。  
12月24日（土）帰国の途に着く。  
12月25日（日）帰国

#### 2016 年ネパール活動概略

JICA に申請した JICA 草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」は採択されたが、実行開始までには様々な手順を踏まなくてはならない。その最大の難関が社会福祉協議会（SWC）によるプロジェクト承認である。ネパールでは海外からの NGO が多種多様なプロジェクトを行っているが、SWC に承認されなければプロジェクトを行うことができない。ネパールの政治状況の不安定から、政府機関である SWC の人事等にも影響が出て、その結果 NGO から SWC に提出されたプロジェクト関連書類が処理されずに山積みになっている。我々のプロジェクト承認もかなり時間がかかった。JICA プロジェクトは採択から1年以内に開始されることが望ましいとされているため、我々もかなり心配になった。3月末にやっとプロジェクトが承認され、5月に JICA と徳島大学の本契約に至ることができた。JICA プロジェクトは請負事業であるため契約を締結することによって実行に移すことができる。個人的には、自費でネパールに渡航していたのが、やっと旅費等を JICA 予算で負担されることになり楽になった。

5月からプロジェクトをスタートさせることができ、カウンターパートである B. P. Eye Foundation (BPEF) が運営する小児眼科病院内に現地事務所を開設した。現地事務所には徳島大学から派遣したウプレティ美樹氏が常駐し、事務処理等を担当している。また、現地職員として2名のネパール人を雇用した。徳島大学国際課には国内業務担当としてさらに2名を雇用し、プロジェクト関連の事務処理を行っている。プロジェクト予算は JICA から徳島大学に供与され、徳島大学の会計処理規則によって使われる。また、ネパール現地での会計処理規則にも従う必要があり、会計処理は複雑であり時間がかかる。

7月には、カトマンズでプロジェクト開始セレモニーを行った。セレモニーには在ネパール日本大使館から小川大使が出席され、徳島大学からは永田理事（研究・国際担当）・副学長が出席された。開始セレモニーはネパールの新聞に報道され、現地の期待が感じられた。



プロジェクト開始セレモニーで挨拶する永田理事（研究・国際担当）・副学長

9月には2名のネパール人眼科医が研修のため来日し、徳島大学で約1ヶ月間研修した。ネパール眼科病院の **Chunu Shrestha** 先生とポカラのヒマラヤ眼科病院の **Hara Maya Gurung** 先生で、二人とも意欲的で、帰国後はネパールで我々のプロジェクトのために活躍することが期待される。



眼科外来で研修中の Shrestha 先生（左）と Gurung 先生

11月にはカトマンズで網膜カンファレンスを行った。当初の計画では三田村先生が出席する予定であったが、来られなかったため、教室から仙波先生と園部先生が出席し講演した。この網膜カンファレンスは **JICA** プロジェクトの1年目の最大の行事であり、無事終了することができ安心した。今後、プロジェクト実行のため、また海外での講演等の活動経験のために教室の若い先生の参加を期待している。



第1回網膜カンファレンス集合写真



講演中の仙波先生



講演中の園部先生



講演終了後

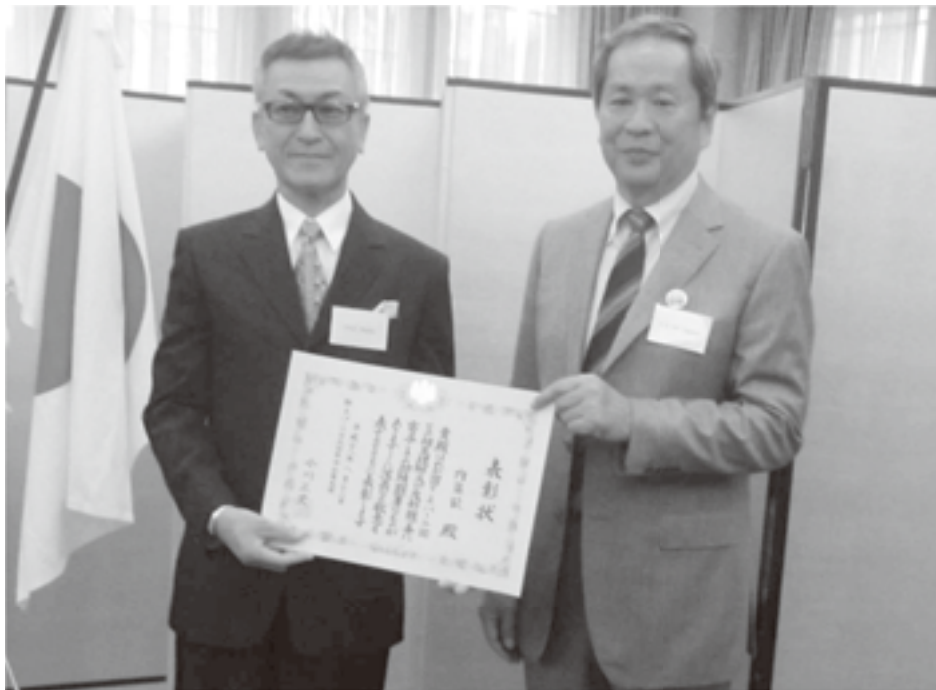
JICA プロジェクトの準備の合間に3月には長年にわたって支援してきているネパール南部のゴール眼科病院を訪問し、着実に発展している現状を見ることができた。ただ手術顕微鏡等の機材が老朽化し、メンテナンスの必要が出てきている。光学部にカビが生えたツアイス顕微鏡を直して欲しいと頼まれ、藍住で開業されている山根先生から寄贈していただいた同型の顕微鏡の光学部を現地に送った。ゴール眼科病院では年間約3万件の白内障手術を施行していて、山根眼科で眠っていた機材がネパールの僻地で再び活躍するのは素晴らしい。また、ゴール眼科病院訪問後、ネパール眼科学会総会に出席し、開会式で基調講演を行い、JICA プロジェクトへの協力を依頼した。学会終了後、会場となった **Biratnagar Eye Hospital** を視察したが、蔵本キャンパスに匹敵する広大な敷地によく整備された建物が立ち並んでいた。また、自然浄化装置で水のリサイクルも行っていることには驚いた。





ネパール眼科学会総会での基調講演

8月には私の30年以上のネパールでの活動に対して在外交館長表彰を頂くことになり、カトマンズの日本大使公邸で授与式が行われた。これは皆様方のご協力があったからこそ頂けたと深く感謝しております。



在外交館長表彰授与式。小川大使から授与された。

## 2016 年エジプト眼科医療支援報告（独自プロジェクト）

2011 年からエジプトに帰国した留学生たちのその後の活躍を見るために、毎年エジプトに渡航して支援している。これは日本で留学中に実際に医療行為が出来ないため、帰国後に現地で手術を教えることが目的である。

3 月 7 日（月）出発、3 月 13 日（日）帰国の予定でエジプトを訪問した。関空から飛び立ち、ドバイで乗り換え、3 月 8 日（火）、カイロに到着した。カイロ空港には徳島大学に留学していた Farouk 先生のアシスタントをしている Hasan 氏が迎えに来てくれていた。カイロから 500 キロ以上離れたソハーグまで、彼の運転する車で移動した。

3 月 9 日（水）から 3 月 11 日（金）までの 3 日間、ソハーグ大学病院で手術指導を行った。Farouk 先生は昨年に比べ、さらにすばらしく技術が進歩していた。私はアドバイスするだけで手を出すことはなく、ほとんど全ての症例を彼だけで終了することが出来た。



ソハーグ大学の若い先生方と



手術中の Farouk 先生

Farouk 先生は徳島で学習したことを母国で発展させ、地域医療の発展に貢献している。しかも大学病院の患者数と収入が大幅に増加し、最新の医療機器を独自に購入するに至っている。徳島で勉強し、母国で活躍する姿を見るのはとてもうれしいことで、今後も支援していく予定である。

#### 2016 年モザンビーク眼科医療支援プロジェクト（独自プロジェクト）

アフリカ眼科医療を支援する会（AOSA, <http://aosa-eye.org>）の 2016 年のモザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）は、今まで長年行ってきたモザンビーク北部のカボデルガド州ではなく、南部のガザ州のシャイシャイで行うことになった。シャイシャイは首都マプトから約 200 キロ離れたところにあるにもかかわらず、眼科医療サービスは貧困である。今回の医療活動では、モザンビークの医療事情の問題点を明確にすることも目的の一つである。これにより今後の我々の活動の方向性を決めることにもなる。

6 月 14 日（火）参加メンバーは香港で集合し、香港から南アフリカのヨハネスブルグに飛び、6 月 15 日（水）早朝のヨハネスブルグに着いた。さらに乗り換えてモザンビークの首都マプトに向かった。マプトからはチャーターしたバスで目的地のガザ州のシャイシャイに向かった。



アイキャンプ会場のシャイシャイ病院

6 月 16 日（木）から 6 月 20 日（月）の間、シャイシャイ病院でアイキャンプを行い 210 名の失明患者の白内障手術を行った。手術により独自歩行が不可能であった患者さんも視力を回復し、独自歩行が可能となった。





アイキャンプでの手術風景

今回の活動には 2 名のモザンビーク人眼科医を招待し、技術指導を行った。6 月 21 日（火）マプトに移動し、モザンビーク保健省でアイキャンプの報告会を行った。質疑応答ではモザンビークの現状と色々な問題点が出てきたが、我々は助言できても、モザンビークの問題は彼ら自身で解決するしかないと思った。その後日本大使館の方々と情報交換し、日程を終了した。



モザンビーク保健省でのアイキャンプ報告会記念写真